

# 事例1) 空き家が火元となった類焼事例

約24年間管理不全状態だった空き家が不審火により夜間に出火し、当該空き家を含めて3棟が全焼、他に1棟がほぼ全焼。さらに、道路を隔てた4棟の火元側の壁1面が焼け焦げるなどの被害をもたらした。

## ■ 建物

築約40年の一戸建住宅、面積約40㎡

■所有者：不動産業者(所有者から買取り)

## ■ 空き家の状況

昭和63年頃から約24年間空き家状態。

無施錠状態であり、時々、不審者が不法滞在。

## ■ 経緯

・昭和63年頃：地元の不動産業者が買取った後、買い手がつかず、長期間放置

・平成21年3月：未明に空き家から不審火により火災が発生  
近隣の住宅が類焼(全焼および部分焼け)  
※被害に遭った家屋は自らの火災保険により再建・改修

※火災事故の新聞報道がきっかけとなり、首長の指示で  
条例化検討開始。平成23年4月に条例施行。

